

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	良くなる やや良くなる	—	—
		—	—
		商店街（代表者）	・地域の祭りがあるので食品や衣料品関係は良くなる。
		商店街（代表者）	・想像を超えた悪い状況は続いているが、消費税増税の影響も徐々に少なくなっていく。
		商店街（代表者）	・7～8月の来客数の伸びと合わせて、客単価が3か月前より上昇しているのやや良くなる。
		商店街（代表者）	・これから企業がキャンペーンを打ち出し始めるため売上が見込める。
		商店街（代表者）	・秋の早まりも感じられ天候の回復とともに来客数、売上共に持ち直すと期待している。
		一般小売店〔青果〕 （店長）	・現在、売上が悪いのは景気ではなく天候の影響である。客が財布のひもを緩めるようなプラス要因がないので、あまり期待できない。
		一般小売店〔精肉〕 （店員）	・涼しい天候が続けば鍋物需要が早まる。
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・新規の固定客、納品先を開拓しないと厳しいが、涼しくなるとギフト需要が増えるはずなので2～3か月先は良くなる。
		百貨店（営業担当）	・年末に向けて消費全体が増えていくなか、消費マインドにおける消費税増税の影響も弱まっている。
		百貨店（営業担当）	・現在のほぼ横ばいとなる。
		百貨店（販売促進担当）	・グランドリニューアルオープンのため、多くの顧客来店、新規客の来店が期待できる。
		百貨店（経営企画担当）	・シーズンが変わり秋口から商品の切替えが始まるので、消費税増税前の駆け込み需要の反動減は収まると予想している。
		百貨店（企画）	・リモデルにより売上が上がることが想定される。
		スーパー（店長）	・3か月連続で、売上は前年比で増加している。消費税増税の影響が薄れてきているので、今後3か月も回復していく。
		コンビニ（販売促進担当）	・毎月の販売量の推移をみると、食パンと菓子パン共に伸びが続いている。今後、横ばいかやや増加傾向で販売量が推移するとみている。
		家電量販店（広報・IR担当）	・主要商品の平均単価は上昇傾向にあり、高付加価値の商品が売れている。歳末商戦に向け徐々に良くなる。
		家電量販店（従業員）	・気温が下がることで暖房器具が売れる。
		乗用車販売店（総務担当）	・9～10月の秋の増販期に入る。消費税増税の影響もなくなり車両販売台数が上向く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・秋に向けて、国体など大型イベントがあるため動きが活発になる。
		旅行代理店（従業員）	・10月以降の海外旅行は、燃油サーチャージの下落、夏休みの不振の反動の影響が非常に好調である。
		通信会社（業務担当）	・9月は新商品発売により来店客数増が見込まれ、8月に続き販売台数は昨年を上回る。
		ゴルフ場（従業員）	・入場者数については、9～11月まで予約が確実に入っている。ショップでは提案された様々な商品を導入しており、それが売れている。景気が少しずつ上向いているのを実感できる。
		美容室（店長）	・2～3か月先は、旅行や結婚式等で客が動くためやや良くなる。
		設計事務所（代表）	・消費税増税の影響がある。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・秋口になったら多少天候も安定して、客の出足も回復すると期待している。		
商店街（代表者）	・我々のような末端の零細企業に対して、アベノミクスの効果は全くない。		
一般小売店〔鮮魚〕 （店員）	・年末に向け何とか良くなってほしい。		
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・外販での売上が低迷し、店頭販売で売上が増加しても全体的には横ばいである。		
百貨店（営業担当）	・紳士服飾・雑貨は好調であったが、婦人衣料・雑貨は天候の影響もあり低迷した。自家需要の紳士靴、メンズバッグ、キャラクターカジュアルが好調に推移した。リビングでは、寝具やインテリア、家具・敷物等の自家需要商品が好調である。今後もプチゼいたく気分の買物傾向が継続する。		
百貨店（業務担当）	・秋物は必要になってから買うと言う客が多い。季節商品の提案期になっても商品が動かない。消費に対する考えが慎重になっているのに加え、商品を見極める時間が長くなっている。		

百貨店（売場担当）	・関連店舗の付近にホテル兼商業施設がオープンする。業態が若干バリエーションするので、売上は現状の98%程度となる可能性が高い。店舗全体で見ると、ほぼ前年並みと予測する。
百貨店（営業統括）	・天候不順が続くと予想される。また、株価も伸び悩み、物品購買促進につながる見込みが立たない。
百貨店（店舗事業計画部）	・先行購入する顧客はまだ少ないので、引き続き天候に左右される見込みである。秋物は少し早目に反応が出ているが、年間を通して長く着られる羽織ものが中心で、買方は慎重である。
スーパー（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減の影響か高額商品が売れなくなった。
スーパー（店長）	・客の買上数が増えたり、買上単価が上がる可能性があまりない。
スーパー（店長）	・来店客数は今年の横ばいと見込まれる。青果の相場が上がっているため買上単価は上がっているが、買上数は減っている。買上数を多くする努力をすれば売上は昨年並みとなる。
スーパー（総務担当）	・消費税増税後、衣料品・住居用品の動きがかなり鈍化しており、その傾向は今後も継続する。
スーパー（経理担当）	・天候不順による野菜高騰等もあり、やや悪いまま推移する可能性が高い。
スーパー（業務担当）	・天候不順による影響は、生鮮だけでなく衣料品や家庭用品にも出てくる。特に秋物衣料が不調となれば、売上の前年割れが続くことは避けられない。
コンビニ（経営者）	・アベノミクスの期待感から消費マインドが上向いてきたような時期もあったが、実体経済の動きがない。顧客もその点を気づき始めているので、今後は消費マインドが低下する。
コンビニ（エリア担当）	・今後も厳しい状況が続く。客数、客単価もかなり低くなっており何も期待できない。
衣料品専門店（店長）	・雨が多く天候不順により客が商店街へ出てこない。イベントを開催しているがさっぱり効果がない。
衣料品専門店（店長）	・9～10月になっても景気の良い話はない。
衣料品専門店（チーフ）	・当店の需要は以前と比べ高まることはない。消費税増税の影響により、単価は抑え気味に推移する。ただし、ビジネス向けを対象にしている紳士服業界は購入につながるだろう。
衣料品専門店（総務担当）	・現状の客の動きをみると、この状況が改善されて良くなることはない。
家電量販店（店員）	・エアコンが売れる夏が終わり、これから涼しくなると何が売れるのか想像できない。客を待つのではなく、トイレ、洗面台、キッチン等家電のリフォーム関係を仕掛けていかないと利益は上がらない。
家電量販店（店員）	・消費税増税の影響がなくなり良くなるという予測もあるが、8月の売上があまりにも低いので、9～10月については様子見という判断である。
家電量販店（総務担当）	・端境期にあたる9～10月に話題商品が少ない。
乗用車販売店（従業員）	・今年いっぱい新型車もなく、目玉となる商品がないので苦労しそうだ。
乗用車販売店（代表）	・良くなる気がしない。
住関連専門店（経営者）	・今月は消費税増税前の水準に戻ってきたが、長雨や天候不順等で秋の収穫は良くない。農産物の不良が消費にも影響を与える。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・雨が深いということもあり、来客数は若干減少している。ただし、1人当たりの購入単価が上がっているため、売上は横ばいの状態である。天候に左右されない限り、9～10月は昨年とほぼ同じような状態になる。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は高止まりから下降傾向にあり、今後、顧客が燃料油の満タン給油に戻ってくるものと予想される。秋の行楽シーズンにおける自動車旅行等の増加で、燃料油やカーケア商品の増販に期待する。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・消費税増税後の消費の引き締め感は当分続く。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・秋の行楽シーズンを迎え旅行者が増えてくるが、客の購入単価が低下傾向にあるため、昨年並みの売上は期待できない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・現状は、梅雨明けが昨年より遅かったため、昨年早々に在庫切れとなった商品が遅れて売れている状況である。良くなる要素がない。

	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	・現在、前年実績を上回る実績を上げているのは外国人観光客を取り込めている施設のみで、インバウンド以外に好材料が見当たらない。	
	高級レストラン (支配人)	・先の予約が少ない。	
	高級レストラン (専務)	・月末に向けて宴会が増え、少し持ち直す。	
	スナック (経営者)	・ここ数年、売上、来客数の変化はない。消費税増税を機に値上げをして単価は上がったが、客数に変化はなかった。	
	都市型ホテル (販売担当)	・上期の売上はこのままでいくとマイナスになりそうだ。下期の動向はあまりみえないが、9～10月がプラスになれば良くなる。	
	都市型ホテル (副支配人)	・11～12月は福岡市内のイベントがたくさんあり、現在、手持ちの予約が今年の40%以上を記録しているので稼働率が十分に上がる。	
	旅行代理店 (企画)	・燃油高騰、円安が続く、旅行需要への向かい風となる。	
	タクシー運転手	・9月は学校行事が多く、タクシー利用があまり多くない。	
	タクシー運転手	・全体的に会社関係の予約は良く入っているが、夜の繁華街の客が大変少なく、店をやめたいという話も聞く。	
	タクシー運転手	・この先しばらくは変わらない。	
	通信会社 (企画担当)	・今のところ、現状よりも改善される明確な情報がない。	
	通信会社 (企画担当)	・上昇、低迷の要因が見当たらないため、当面は様子見といったところである。	
	通信会社 (営業担当)	・景気が良い話は一切出てこない。	
	美容室 (経営者)	・秋後半に向かって、美容業界はある程度需要が見込まれる。しかし、天候不順で周りに活況がないと、一番大きなターゲットである主婦層がだんだん利用を控えるようになる。	
	理容室 (経営者)	・暑くなると客は結構動いてくれるが、梅雨のような天候不順で客の動きが非常に悪い。	
	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	・株価上昇による資産増加で、高額な有料老人ホームの入居は戻ってきているようだ。しかし、在宅サービスはあまり景気等に影響されず、来年の介護報酬改定の増加もあまり期待できない。	
	設計事務所 (所長)	・民間の工事が落ち込んだ分、官公庁の工事に期待するしかない。	
	設計事務所 (所長)	・新規の市場が少ないので変わらない。	
	住宅販売会社 (従業員)	・北部九州圏は、消費税増税の反動減から徐々に回復しそうだが、南九州は来場者数の動きが鈍く、販売実績は前年比3割減のままで、回復は当分見込めそうにない。	
やや悪くなる	スーパー (店長)	・生鮮品に比べて非生鮮品の販売量が落ち込んでいる。その傾向が2か月続いているので、今後も楽観できない。3か月後もこのまま厳しい状態が続く。	
	スーパー (店長)	・消費税増税の影響に加え、競合店の出店計画があるため厳しくなる。	
	スーパー (統括者)	・会社全体の業績は厳しくなると考えられ、今後も良くならない状況である。	
	コンビニ (店長)	・ガソリンや農産物の価格高騰により、販売量がさらに減少するのではないかと予想する。	
	高級レストラン (経営者)	・2～3か月先は涼しくなり忘年会シーズンに近づくが、今のところ問い合わせが芳しくない。9～10月の客がもう少し増えると良くなるが、忘年会頼みの商売は時期が限定されるので厳しくなる。	
	一般レストラン (経営者)	・質よりも、お得感のある競合店へ客が移っているため、客数が減ってきており、年末まで良くならない。	
	観光ホテル (総務)	・3か月先の収入予測より、景気はやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・今のところ景気対策が打ち出される様子がないので、消費者の財布のひもがかなり固くなり、回復するのは難しい。	
	通信会社 (営業)	・夏商戦が終了し、人・物・金が動き出す冬までの端境期は、現在と比較して若干消費等が冷え込むと考えられる。	
	競馬場 (職員)	・来場者数の前年度比の数値は引き続き良くない。	
	住宅販売会社 (従業員)	・年度内の引き渡しを考えた際、10月の契約が注文住宅のタイムリミットになる。客の買い控えや値引き交渉等が厳しく非常に利益率が低いため、見通しは良くない。また、消費税増税も控えており先行きが不透明である。	
	住宅販売会社 (代表)	・住宅購入の顧客は、高価格帯と低価格帯で買い控えが発生しており動きが鈍くなっている。不動産販売を合わせた中価格帯はさほど影響は出ていない。	
	悪くなる	○	○
企業	良くなる	—	—

動向 関連  (九州)	やや良くなる	家具製造業（従業員）	・今年消費増税等のマイナス要因はあったものの、中級以上の家具の売上が伸びているため、全体の売上は前年比で毎月伸びている。受注件数は横ばいか若干減少しているが、受注単価が伸びたため、今年全体の売上は前年比で115%程度伸びている。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・大型災害などもあり、地図利活用の見直しが必要になってくると想定される。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・焼き物関係は夏場が閑散期であるので、秋口にかけて伸びると期待している。商品の荷動きも閑散期の反動が出てくる。企画商品も何件か決まっている。	
		鉄鋼業（経営者）	・受注量・販売量共に5月ごろから減少に転じ、同じ状況が7月も続いた。現在、建築工事の遅れも多数あり、出荷の減少になっている。盆明けから少し受注が増えてきたので、秋口から着工される建築物件の材料発注が動き出したようだ。	
		電気機械器具製造業（取締役）	・自社の投資マインドが高まっている。	
		精密機械器具製造業（従業員）	・はっきりとした理由は分からないが、今月、受注先から11月までの計画でかなりの増産要求がきている。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車種投入による初期需要が拡大する。	
		その他製造業（産業廃物処理業）	・取引先の特化した機種が増産体制という情報があり、今後、取引が少しずつ増えてくる。	
		建設業（社員）	・前年度に比べ下請の依頼が非常に少なくなっているようだ。いまだに受注できていない同業者もいる。下半期に向けて良くなると信じている。	
		通信業（経理担当）	・天候不順により、夏季商品の落ち込みで消費が低迷しているが、季節が変われば落ち込みが解消されて消費が上向くと考えられる。	
		金融業（調査担当）	・設備投資への融資が増加傾向にあるのは、取引先の将来に対する見通しが良くなっている証拠である。当面は景気回復が見込まれる。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先に業況を聞くと、多くの企業が明るい見通しを持っている。	
		変わらない	農林水産業（経営者）	・注文量は各分野ともかなり多いが、9月は残念ながら原料となる鶏の入荷が極端に少なくなっており、工場稼働に大きな影響が出そう。原因は夏の暑さによる卵の不足で、鶏の出荷が逼迫していることにある。ただ、10～11月になればその反動で原料の発注が多くなり、売上も期待できる。年内の動きは概ね順調にいく。
			農林水産業（営業）	・現状から生産状況等が変わることは予想できない。
			食料品製造業（経営者）	・納入先の集客及び売上状況をみても景気が上向きになったという実感がわからない。客単価はやや増加したものの、客数が一向に増加しない。周囲の情報からも当分この状態が続く。
		食料品製造業（経営者）	・繁忙期に入るため受注数量も順調である。しかし、生産数量が増えるにつれ食材・資材の値上げの影響が表面化する。また、天候悪化による農作物の価格上昇も考えられ、マイナス要因となり得る。	
		化学工業（総務担当）	・当工場の製品は景気にあまり左右されないため、今後も変わらないと判断した。	
		金属製品製造業（事業統括）	・人手不足が解消されない限り改善されない。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーと話し合いをするが、具体的な案件は出てこない。担当者の見通しがたっていないようだが、もう少し積極的に動いて欲しい。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の引き合い、見積等から将来の景気に暗さはないが、今後、大きく良くなることもない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・9月になれば少し良くなるという楽観的な見方をしているが、現段階ではよく分からない。	
		輸送業（従業員）	・今のところ荷動きは低調のまま推移していく。	
		通信業（職員）	・8月は気温が上がらず、このまま秋を迎えれば省エネ関連の受注が伸びない。	
		金融業（従業員）	・円安による原料・燃料費の上昇や人手不足などから経営環境が厳しくなっている先がみられる。一方、雇用・所得環境の改善などから自動車の販売が回復傾向を示しているほか、海外からの観光客も増加してきている。	
		金融業（営業担当）	・人出不足の状況は改善できる兆しがみえない。売上の増加が利益に反映されるにはハードルが高く、中小・零細企業の業況は変わらない。	
		金融業（営業）	・引き続き高水準での横ばいが続く。どの業界も設備投資意欲は高い。太陽光発電設備に対する投資も高水準である。	

	金融業（得意先担当）	・ 昨年の災害復旧関連工事の発注の反動減もあり、発注件数が大幅に減少している。今後、業況や資金繰り面において注視する必要がある。ただし、現時点においては現状維持で推移すると判断している。	
	不動産業（従業員）	・ 市内オフィスビルの入居率が新築既存共に横ばいで推移している。	
	広告代理店（従業員）	・ 8月の新聞折込受注枚数は、前年同月比90%と想定を超える下落となった。消費税増税後、消費マインドの低調が続いているなか、追い打ちをかけるように、異常気象となった。冷夏は思った以上に当業界に大打撃となった。すべての業種で出稿が控えられたまま、夏が終わりそうだ。	
	広告代理店（従業員） 経営コンサルタント	・ この状態を開閉する要素がない。 ・ 福岡市は特区に指定された。その影響を期待したいが、具体的な内容についてはこれからの検討となっている。当分、効果は期待できそうにない。	
	経営コンサルタント （社員）	・ 消費者の購買状況が変わっていない。	
	経営コンサルタント （代表取締役）	・ 8月の天候不順が今後、農業製品等を中心に悪影響を及ぼす懸念がある。台風等の影響がなく順調に推移すれば少しはプラスになる。	
	その他サービス業〔物 品リース〕（支社長）	・ 原子力発電所の再開可否により動きがある。エネルギーコストは依然上昇しており、次年度は省エネ補助金が800億円規模に倍増する。次年度に向けて活発化する。	
やや悪くなる	繊維工業（営業担当）	・ 運送代や原油の値上げで、段ボールや糸も値上げとなる。当社は利益を簡単に出せなくなる。また、理解に苦しむが最低賃金の上昇が続いている。	
	建設業（従業員）	・ 見積案件の減少や、型枠工などの人材不足で仕事の確保もままならない。下請単価の増加により収益が圧迫されることが、予想される。	
	輸送業（総務）	・ 長雨による日照不足で農産物への影響が考えられる。	
	輸送業（総務担当）	・ 貨物の荷動きが非常に悪い状態である。一部商品の値上げ等もニュースで流れており、今のところ良くなる見込みがない。	
悪くなる	—	—	
雇用 関連	良くなる	—	
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・ 年末になるとお歳暮の需要が出てくる。また、ここ数か月、市内中心部で、国内外の観光客の姿を目にすることが多くなっている。接客業からの注文も増えている。
		職業安定所（職業相談）	・ 有効求職者数の減少傾向、有効求人数の増加傾向は続いているため、有効求人倍率は今後も上昇する。
		民間職業紹介機関（社員）	・ 量は少なく見積ベースの話であるが、年末に向けて販売・接客の動きが出てきている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・ 特に変化の要因が見当たらない。
		人材派遣会社（営業）	・ 地方の雇用情勢は上向いているとはいえ、全体的な景気上昇の実感には難しい。落ち込むことはないが大幅な上昇もなく、変化はない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・ 自社で調査している求人取扱件数から、市場はわずかながら伸びているが、自社の件数は前年を割り始めている。地場企業の求人意欲が低下してきているのが原因とみられる。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ 新聞の求人広告は製造業の動きが弱く、求人数の回復の兆しはみられない。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ 消費税増税の影響がまだ続いている。
		職業安定所（職員）	・ 新規求職者数が減少し、新規求人が増加する傾向は続くと思われる。月間有効求人倍率は当分0.8後半から0.9倍台を推移していく。
		職業安定所（職員）	・ 原油価格や原材料の高騰等により先行きが不安定との声企業が聞かれており、大きな改善は望めない。
		職業安定所（職員）	・ 企業訪問時に景気動向を聞くと、消費税増税に関してはほとんど影響がないとするところが多く、今後、業況を左右するような動きは特段見受けられないとのことだ。
		民間職業紹介機関（支 店長）	・ 第1四半期と7～8月の求人数は、前年同期に比べて微増ではあるが横ばいに近い。増加傾向がみられない限り現状と変わらない。
		学校〔専門学校〕（就 職担当）	・ 企業の人材採用難は続いており、学校への求人引き合いは強いままである。2～3か月後に急に採用難が解消するとは考えられない。
やや悪くなる	学校〔大学〕（就職支 援業務）	・ 企業の採用活動は現在活発化しているが、10月ごろはある程度落ち着いた状況となっていると予想される。	
	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ 消費税増税に合わせた値上げも多い。また夏の天候不順の影響も今後少しずつ出てくる。	
悪くなる	—	—	